

# Cloud Wi-Fiとオンボーディング に向けた高度なセキュリティ



個人デバイス持ち込み(BYOD)ユーザー、来客、IT部門から支給されたデバイスがIT部門の介入を必要とせず、シンプルかつセキュアにネットワークへアクセスできるよう、一元化されたネットワークのオンボーディングを備える直感的なセルフサービスのワークフローを多数の企業が開発しています。

[世界全体のBYOD市場](#)は2019年～2024年にかけて15%を超える年平均成長率を達成することが見込まれており、中でもアジア太平洋地域が最高の成長率を示しています。BYOD採用は、業務情報または個人情報のいずれであれ、どこでも情報へアクセスするため、日常生活でのモバイルデバイス利用の継続的な増加、様々な分野にまたがるIT支出の増加、在宅勤務の企業文化、スマートシティ政策などを背景に広がっています。

さらに、安全でないネットワークアクセスは、多くの企業では無視できないリスクです。[有線とワイヤレスのアクセスに対するセキュリティを改善する簡単な方法](#)に沿ったCommScope-Ruckusのソリューションポートフォリオは、ネットワークで使用できるデバイスとユーザーの可視化と管理を改善し、データセキュリティを強化します。

## セキュアなオンボーディング

特にセルフサービスに対する企業とエンドユーザーの期待は、消費者としての体験に基づいています。ユーザーは、小売店で新しい携帯電話や自宅のWi-Fiへ一度設定し接続すれば、その後は何もしなくてもよい習慣に慣れ親しんでいます。

しかし企業環境では、IT部門はMAC認証やネットワークのインフラに組み込まれた事前共有鍵(PSK)などの、面倒な[ネットワーク オンボーディングと認証](#)に頼りがちです。

正しい仕組みに基づくセルフサービスのほうが、ネットワークのオンボーディングに適しており、ユーザーが簡単に、直感的に扱えます。このため、IT部門が関与せずとも、ユーザーが1回だけオンボーディングを行うと済む[セキュアなネットワークのオンボーディング](#)の専用システムが求められています。

## Cloudpath導入システム

[CommScope RuckusのCloudpathシステム](#)ソフトウェア、またはSaaSプラットフォームは、BYODユーザー、来客、IT部門支給のデバイスがネットワークへオンボーディングするプロセスを一元化します。IT部門が、役割に応じたアクセスのポリシーを定義して管理し、ネットワーク上でユーザーがアクセスできるデバイスを可視化して詳細に制御し、ネットワークアクセスに関するヘルプデスクへの問い合わせを劇的に削減します。

Cloudpathはすべての接続をWPA2-Enterpriseでセキュアにし、強力な暗号化でデバイスとアクセスポイント(AP)間のデータ転送を保護します。社内ユーザーは、自身のログイン情報を使用して、どのデバイスでもネットワークアクセスを自分で確保できるようになります。ネットワーク認証のデジタル証明を通じて、一旦接続すれば、ユーザーはWi-Fiパスワードを覚えておらずに済むようになります。

ゲストユーザーはセルフサービスのログインポータルへアクセスし、メールまたはSMSでインターネットアクセスの認証を取得できます。クラウドベースまたは仮想化されたオンプレミスの実装のいずれであれ、このソリューションはどのユーザー、デバイス、ネットワークインフラをもサポートできます。

## IoTエンドポイントのオンボーディング

デバイスのセキュアなオンボーディングは、多様な規格、デバイス、サービスが乱立するエコシステムでIoTソリューションを実装しようとする企業組織にとって難題です。一般的に、IoTアクセスは複数の物理層ネットワークを単一の集約ネットワークへ統合することで、この問題を解決します。

この共通ネットワークは単一のセキュリティプロトコルを確立し、IoTエンドポイントの管理とポリシー設定を一つにまとめます。[CommScope RuckusのIoTスイート](#)は、LANとWLANインフラを再利用して、そうしたネットワークアクセスの確保を簡素化することで、複数のIoTソリューションをサポートするための実装期間を短縮し、コストを低減します。

このコンセプトは製造、ホスピタリティー、ヘルスケア、教育といった様々な市場へ適用できます。ホテルでは、宿泊客とスタッフが、ますます多くのワイヤレスデバイスやシステムをWi-FiやZigbee、LoRa、Bluetoothローエナジー (BLE) などのワイヤレスプロトコルへ接続しています。こうしたワイヤレスプロトコルを単一のAPへ統合することで、ホテルは物理空間を節約し、デバイスのセキュアなオンボーディングを一元化できます。

さらに、CommScope RuckusのR730アクセスポイントといった統合APを使用して、IT部門はワイヤレスインフラ全体を手軽に監視し、管理して、安全性を確保できます。これにより、ネットワークの自動化、実行に役立つ解析結果の生成、オープンAPIを備えたカスタムダッシュボード作成が可能になります。

## Cloud Wi-Fi

[CommScope Ruckus Cloud Wi-Fi](#)が提供するサービスとしてのワイヤレスLAN管理とCloudpathのサービスを組み合わせれば、新規ユーザーやゲストがWi-Fiを備えたビルやキャンパスで安全かつ簡単にオンボーディングできます。

Cloudpathソフトウェアの802.1X認証管理とRuckusのクラウド管理Wi-Fiを使用すれば、小規模のIT部門であっても、新規ユーザーやワイヤレスAPをリモートで簡単に追加し、ゲストネットワークを管理し、Wi-Fi対応ビルやキャンパス全体、またはマルチサイトの運用を管理できます。

Ruckus Cloud Wi-Fiを使用すれば、IT部門は、直感的でシンプルな単一のウェブダッシュボードまたはモバイルアプリケーションから、エンタープライズグレードのWi-Fiネットワークを設定、管理、最適化、トラブルシューティングが可能です。これにより、例えば小売店は詳細な解析を楽に取得し、ホテルは宿泊客の滞在体験を高め、老人ホームや介護施設はリアルタイムで健康状態のデータをモニターできます。

Cloud Wi-Fiとオンボーディングに向けた高度なセキュリティ

成功事例: [アジアパシフィック大学](#)、マレーシア

## 高速でセキュアなキャンパスWi-Fiが学習体験を向上

アジアパシフィック大学 (APU) は、最高の教育体験と学習体験を提供することを目指しています。このため、同機関は展開と保守を簡単に行える高性能なWi-Fiネットワークを求めていました。

キャンパスですでにスマートデバイスが広範に使用されており、講師、スタッフ、学生がセキュアかつシンプルにオンボーディングできるようにすることが必須の要件となりました。

学生は授業や講義に必要なサーバー アプリケーションへ、キャンパス内外から安定してセキュアにアクセスできなければなりません。ネットワークはまた、講義室や大学の研究室のコンピューター、電話、プロジェクターといった複数のプラットフォームに対するワイヤレス環境をサポートしています。

### ソリューション

[CommScope Ruckus AP](#)がキャンパス全体でシームレスなワイヤレスネットワークのローミングを提供し、最大30万のデバイスへ拡張可能な[仮想SmartZone \(vSZ\) コントローラー](#)を通じて、管理者は大学の変化するニーズに従い、ネットワークを拡張し適応させることができました。

さらに、[CommScope Ruckus ICXスイッチ](#)がネットワークの設定、管理、アップグレードを簡素化し、セキュリティを強化し、トラブルシューティングを最小限に抑えました。ICXスイッチングアーキテクチャが、最も負荷の大きなビデオ、ユニフ

アイドコミュニケーション、VDI、モバイルアプリケーションへ高いスループットを確保しました。

### メリット

CommScope Ruckusソリューションを使用して、APUはBYOD、メディア リッチなアプリケーション、モノのインターネット (IoT) をサポートする、低価格で復元力の高い有線およびワイヤレスのネットワークを導入できました。同機関のネットワークは、どんな場合でも約7,000もの接続デバイスを楽に処理できるようになり、さらに余裕を保っています。



## Cloud Wi-Fiとオンボーディングに向けた高度なセキュリティ

成功事例: [アジアパシフィック大学](#)、マレーシア

このソリューションは、ダイナミック事前共有鍵 (DPSK) と Ruckus の Zero-IT アクティベーションを備えています。DPSK は講師と学生のネットワークを区別でき、Wi-Fi 利用をよりセキュアにできます。同時に、Zero-IT 機能は、講師と学生が IT 部門の介入なしで自身のユーザー ID を使用して、直接認証を行えるようにします。

ワイヤレスクライアントに対する役割に基づく詳細なポリシーを通じて、ユーザーの役割、ドメイン、場所、OS の種類などで区分されたポリシーグループを作成できます。役割は新規ユーザーの認証段階で、必要に応じて他のポリシーと共に割り当てられます。

APU は、緊急事態において管理者が学生の移動状況を追跡するための屋内位置情報追跡、学生が自身の ID を使用せずとも講師が出席状況を追跡することを目的に、分析とインサイト機能の追加を検討しています。

APU は技術面とインフラ面の将来的なニーズに前もって備えています。今後、[Wi-Fi 6](#) は将来のデジタル学習ツールや新興の IoT アプリケーションが要求する容量と安定した接続を十分にサポートできるはずで

